

株主メモ

事業年度	2月21日から翌年の2月20日まで
基準日	2月20日 (そのほか必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定時株主総会	5月(ただし20日までに開催)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
【お問い合わせ先】	イオンモール株式会社 経営企画部IRグループ 〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1 TEL 043-212-6733 E-mail amirdept@aeonmall.com ホームページ http://www.aeonmall.com
【公告方法】	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.aeonmall.com

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。http://www.aeonmall.comから、「投資家の皆さまへ」をクリックしてください。



新生イオンモールのスタートに際し、ホームページをリニューアルしました。



株主さま、投資家の皆さまへのコミットメントを含む、社長からのご挨拶を掲載しています。



イオンモールIRライブラリでは、決算短信およびその他の開示書類、財務データ等を掲載しています。



合併以前の(株)ダイヤモンドシティの、過去3年分の経営成績についてもご確認いただけます。

第97期 中間期報告書

2007.2.21～2007.8.20

ひとも、
まちも、
きらきら。



イオンモール株式会社



2007年8月21日

新生イオンモールがスタートしました。

2007年8月21日、イオンモール株式会社は株式会社ダイヤモンドシティと合併し、新生「イオンモール株式会社」としてスタートを切りました。ショッピングセンター(SC)数は、2007年秋に開店のイオンモール羽生、イオンモール日の出の2SCとあわせ、全国1都2府23県に46SCの展開となります。

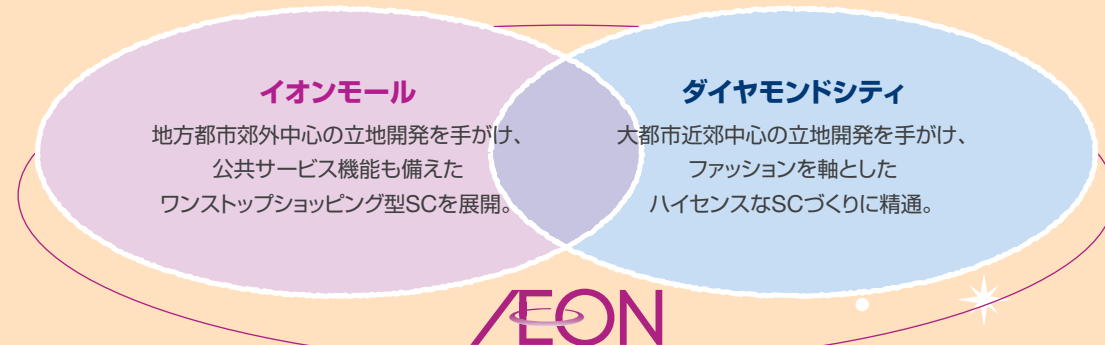


イオンモール株式会社

海外を含めた一層の成長戦略の確保とコスト競争力の強化

▲ 経営資源の統合

立地開発力、テナントリーシング力等培ってきたノウハウの融合



新しい力と可能性を蓄え

地域へ、世界へ、さらなる飛躍を目指します。

イオンモールとダイヤモンドシティ、国内のSC開発をリードしてきた両社の合併の目的は、それぞれの経営資源、高いノウハウを結集し、新たな成長戦略の確保とコストパフォーマンスの最適化を実現することにあります。今後はこれまで以上に強力な経営基盤の確立を図り、国内はもとより、世界を視野に入れての事業拡大へとつなげてまいります。



代表取締役社長 村上教行

新生イオンモールは、「お客さま第一」を基本理念に掲げ、地域との共生を強化し、私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点づくりを通して、魅力あふれる新しい生活がある「輝きのあるまちづくり」の実現を目指しています。地域の生活者の方々、行政、商工業界、テナント企業をはじめとするお取引先等、まちづくりにかかわる方々(パートナー)と連携を図りながら、「輝きのあるまち」を創造し、地域で生活する人々の、より彩りある暮らしの実現に貢献し続けてまいります。

常に新しい価値を提供することで、お客さまにとってはもちろん、SCで働く人にとっても魅力的であること、地域の

経済・文化の発展に貢献し、社会的な役割を担うコミュニティ機能の充実、環境保全にも配慮した、地域のニーズと信頼にお応えできるSCづくりを実践してまいります。社会的責任は、すべてのSC一つひとつを発展させ、その地域において、永続的に存在し続ける成長企業であることと認識しており、10年後の2017年度に向けた長期ビジョンを、世界のディベロッパーランキング*においてベスト5にあたる「グローバル5」と制定しました。国内のみならず、中国・東南アジアへの事業展開を積極的に推し進め、世界に通用するグローバル企業を目指した取り組みを推進してまいります。

経営指標といたしましては、「2010年度(2011年2月期)、SC小売売上高2兆円、営業収益2,000億円、経常利益600億円」を掲げ、「自己資本比率30%、総資産経常利益率(ROA)10%」を重要指標として、経営にあたっております。

今後とも、お客さまの視点で地域に根ざし、ショッピング、コミュニケーション、エンターテインメントを兼ね備えた、お客さまから広くご支持いただけるSCづくりを目指し、一步一步前進してまいります。新しく生まれ変わったイオンモールにご期待ください。

* ICSC (国際ショッピングセンター協会) 調査による賃貸可能面積に基づくランキング





東証第一部上場

イオンモール

1911年設立。日本の小売業界を代表する企業グループ「イオン」の一員として、広域商圈を対象とした多機能複合型SCの開発・運営を展開。小売業に精通したSC専門ディベロッパーの優位性を活かしてお客さまにとって存在価値の高いSCづくりに取り組み、国内ナンバーワンディベロッパーとして揺るぎない地位を築いてきました。

- 1911年 11月 会社設立
- 1989年 10月 大規模SC開発・運営のディベロッパー事業を開始
- 1992年 11月 第1号店イオン柏ショッピングセンター（現イオンモールつがる柏）開店
- 2002年 7月 東京証券取引所市場第一部に株式を上場

ダイヤモンドシティ

1969年設立。日本初の商業専門ディベロッパーとして常に時代のニーズを先取りしたSCづくりを実践し、国内のSC開発をリードしてきました。百貨店とスーパーストア「ジャスコ」を核とする本格的2核1モールSC開発も進め、主として都市型のSC開発を得意分野としてきました。

- 1969年 3月 会社設立
- 1970年 6月 第1号店東住吉ショッピングセンターを開店
- 1989年 10月 大阪証券取引所市場第二部に株式を上場
- 2002年 11月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場
- 2003年 2月 東京証券取引所・大阪証券取引所市場第一部への指定替え



会社設立



第1号店イオン柏SC
（現イオンモールつがる柏）



イオンモール高崎

それぞれのノウハウと
夢を融合させて。

記者会見

2007年8月20日、代表取締役会長 野島英夫、取締役副会長 鯛洋三、代表取締役社長 村上教行が出席し、新生「イオンモール株式会社」についての記者会見を行いました。



- 2007年 8月 合併
- 2007年 11月 イオンモール羽生開店
- 2007年 11月 イオンモール日の出開店

入社式

2007年8月21日、本社を含め全事業所において、新生「イオンモール株式会社」の入社式を行いました。



イオンモール
広島府中ソレイユ

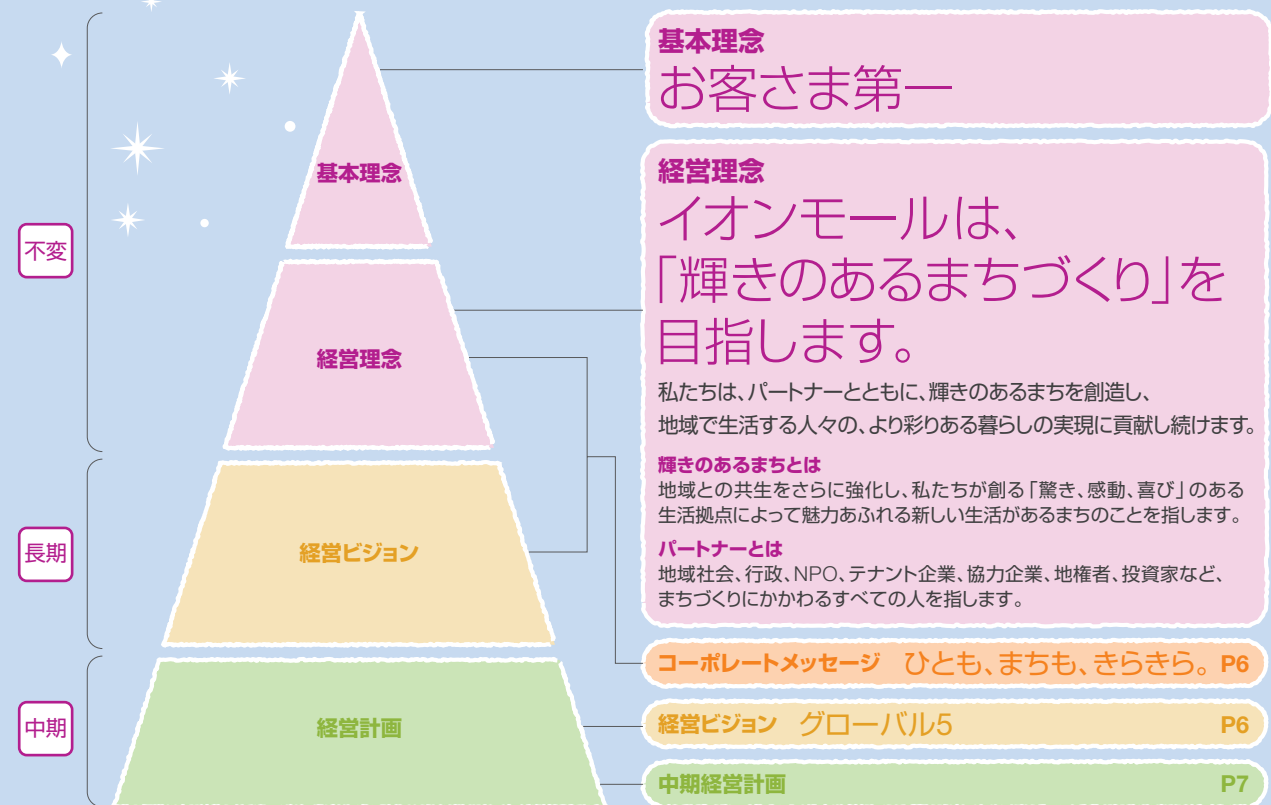


第1号店東住吉SC



「輝きのあるまちづくり」への貢献を目指して 地域との共生をさらに強化。

新生イオンモールのスタートにあたり、これまで以上に、地域社会との共生を強化するという決意のもと、「すべてはお客さまのために」の視点で地域生活者の皆さまに新たな価値をご提案し、その地域で持続的に発展を続ける「輝きのあるまちづくり」企業になるための「基本理念・経営理念」を策定しました。あわせて、今後10年先を見据えた経営ビジョン、新・企業ロゴをお知らせいたします。



コーポレートメッセージ

ひとも、まちも、きらきら。

私たちは、輝きのあるまちづくり「驚き、感動、喜び」のある生活拠点の創造を通じて、お客さまに魅力ある暮らしを提案していくことを存在意義と認識しています。SCが地域の中心となってまちが活気づき、人々の暮らしが彩りとうるおいに充ちたものとなるよう、地域の生活に根ざしたSC開発・運営を推進していきます。



イオンモールの新しいロゴは、企業名を4辺すべてが等しい四角形で囲み、角に丸みを持たせたデザインで、正直、誠実でありながらも親しみをもっていただく願いを込めています。またSCの名称については「イオンモール」で統一し、「イオンモール」の後に地名を入れます。

経営ビジョン

グローバル5

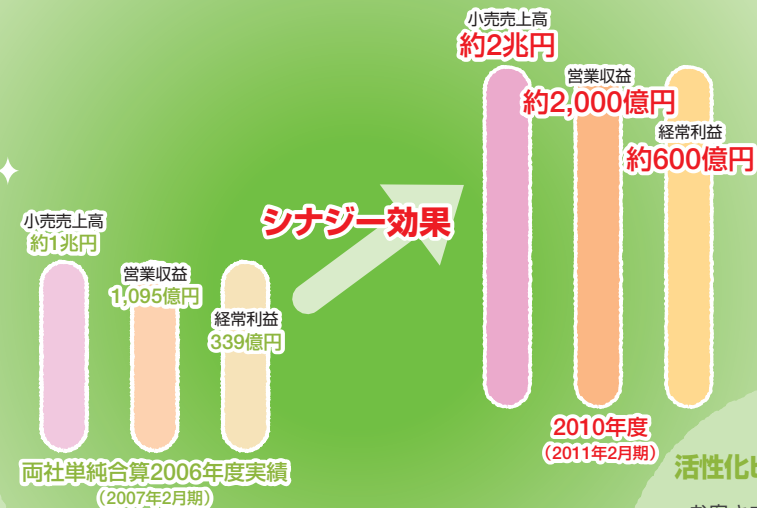
10年後の2017年に向けた経営ビジョンを、世界のディベロッパーランキング※でベスト5にあたる、「グローバル5」と制定しました。

1. 2017 イオンモール国内外150体制
2. 2017 働きたい企業・働きたいモールナンバー1
3. 2017 RSCビジネスモデルを超えた新領域でオンリー1
4. 2017 「驚き・感動・喜び」のある最高のサービスで、地域で人気スポットナンバー1
5. 2017 環境マネジメントモール・世界のディベロッパーでトップクラス

※ ICSC (国際ショッピングセンター協会) 調査による賃貸可能面積に基づくランキング

アジアを代表するグローバル企業として 「グローバル5」達成に向けて、中期経営計画を制定。

新生「イオンモール株式会社」は、経営ビジョンを2017年度に世界のディベロッパーランキングのベスト5にあたる「グローバル5」と制定しました。2008年度から2010年度において、以下の4点を重点項目とした展開を推し進め、2010年度の小売売上高2兆円、営業収益2,000億円、経常利益600億円を目指します。



新規SCの出店拡大

本格的なSC時代において、お客さまからご支持をいただき、地域と共生するSCづくりのノウハウが一段と問われています。今後も、地域社会との共生を図り、地域に根ざしたSC開発を進めるため、エリア別での開発体制を強化し、2008年度から2010年度の3年間で、15SCの出店を目指します。

SC収益力の向上

テナント誘致力をさらに向上し、増床・リニューアル、マーケットに適應した専門店の導入・リプレイス(入れ替え)を進めます。専門店サポートや顧客満足度向上への取り組みを一段と強化し、集客力を高めSC売上高の拡大を図ります。SC数拡大によるコスト競争力の強化、新たな運営ノウハウの構築によりSC収益性を高めます。

国際事業の本格的な展開

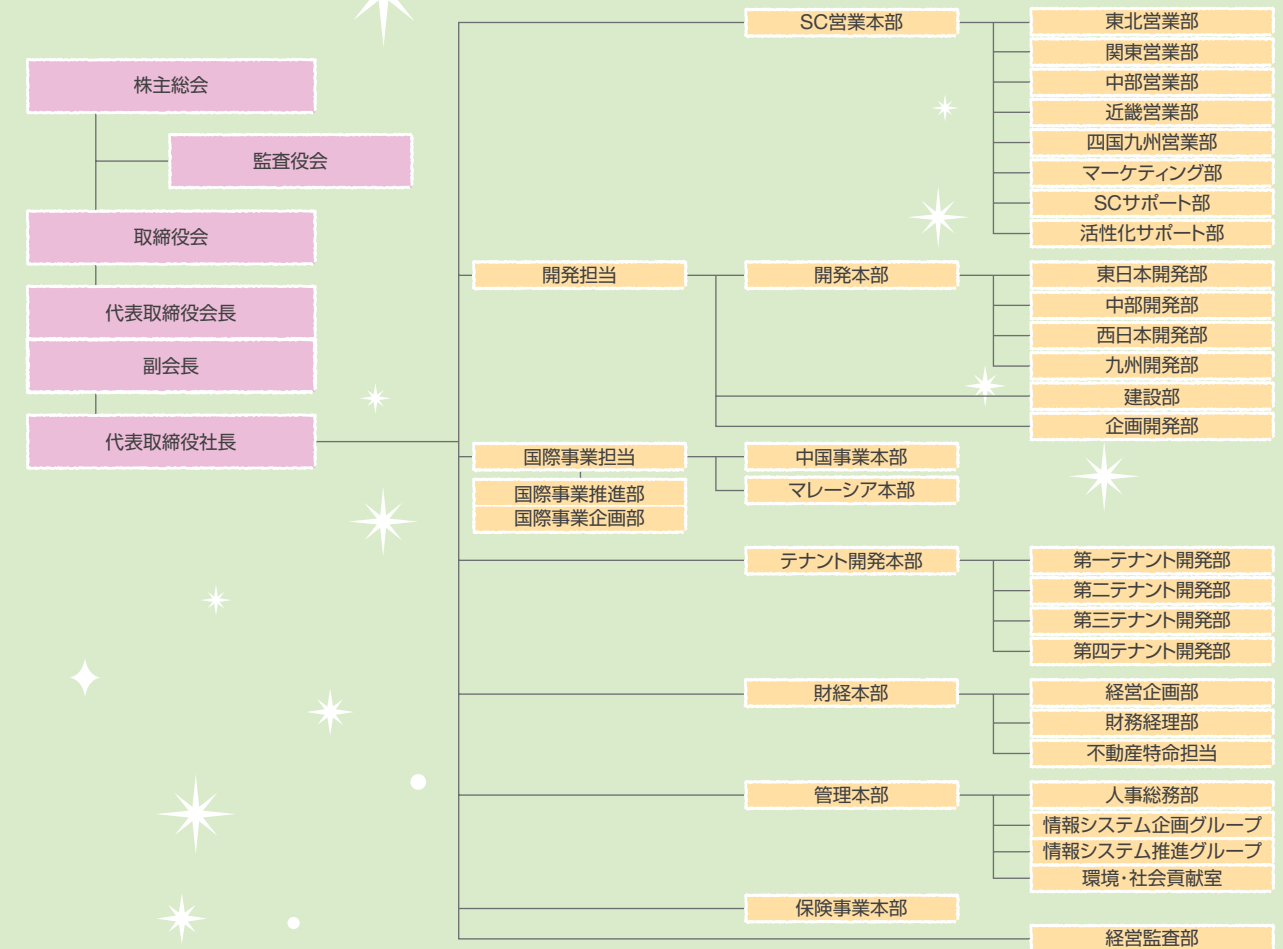
アジアを中心としたモール・ビジネスの本格的な展開の基盤づくりを進めます。国際事業の責任者に取締役副会長を配し、2010年度までに中国、マレーシアにおいて10SCの出店を目指し、SCを多店舗展開できるビジネス・モデルを確立します。

活性化ビジネスへの取り組み

お客さまの選別消費が進むなか、本格的なSC時代において、既存GMSの増床によるSCづくりといった既存店活性化ビジネスを展開し、競争力の優位性を生むモールの開発・運営・管理のノウハウを提供します。

新生「イオンモール株式会社」の組織体制

1. SC営業組織を地域別に編成するとともに、マーケティング機能、現場サポート力を強化、2. 成長力強化のため、開発力を強化するとともに、地域に密着した開発体制、3. 中国におけるモール・ビジネスを展開する体制づくり、4. 新規専門店の導入やSCの活性化サポート体制を強化したテナント開発体制、5. 財務報告の正確性の確保をはじめとする内部統制の強化と、新たな成長戦略を支える財務・不動産管理・法務コンプライアンスの強化を目的とする組織体制を構築します。



新生イオンモール
SCネットワーク

本年11月には「イオンモール羽生」(埼玉県)、「イオンモール日の出」(東京都)を開店し、2007年度末におけるイオンモールのSC数は46となります。今後も、地域社会との共生を図り、地域に根ざしたSC開発を進めます。また、計画的な増床・リニューアルならびに既存SCの活性化を推し進め、収益拡大を図ります。

イオンモール羽生

所在地	埼玉県羽生市川崎二丁目	
規模	敷地面積	232,806m ²
	商業施設面積	88,208m ²
駐車台数	約5,000台	
商圏人口(車で30分圏)	約60万人、約20万世帯	

核店舗にジャスコを、サブ核店舗にスポーツ大型専門店や家電大型専門店、シネマコンプレックスを配し、約200店の多様な専門店で構成された大規模複合型SCです。羽生市の生活文化向上の拠点となるような店づくりを目指しています。



11月23日
オープン予定



11月23日※
リニューアル
オープン予定

「イオンモール川口キャラ」(埼玉県)では、リニューアルを開始。30代女性の“ファッションと美”に焦点を当てた高感度な生活シーンの提案と、地域No.1のキッズゾーンの構築、レストランゾーンの拡充を図り、さらに充実したショッピング環境を提案するモールへと生まれ変わります。また、「イオンモール千葉ニュータウン」(千葉県)においても増床・リニューアルを予定しており、その他SCにおいても魅力ある専門店の導入など、既存店の活性化を積極的に進めていきます。

※「イオンモール川口キャラ」「イオンモール千葉ニュータウン」ともに同日リニューアルオープン予定です。

イオンモール日の出

所在地	東京都西多摩郡日の出町大字平井字三吉野桜木地区	
規模	敷地面積	134,253㎡
	商業施設面積	76,240㎡
駐車台数		3,650台
商圏人口(車で30分圏)	約40万人、約16万世帯	

SATYと多種多様な160店の専門店からなる、地域最大級のSCです。JR武蔵引田駅から徒歩約10分、圏央道日の出ICからクルマで約2分という良好なアクセス環境のもと、広域からの集客が期待できます。

SC一覧 (2007年8月21日現在)

- ① イオンモールつがる柏
- ② イオンモール下田
- ③ イオンモール秋田
- ④ イオンモール盛岡
- ⑤ イオンモール名取エアリ
- ⑥ イオンモール太田
- ⑦ イオンモール高崎
- ⑧ イオンモール水戸内原
- ⑨ イオンモール川口グリーンシティ
- ⑩ イオンモール川口キャラ
- ⑪ イオンモール羽生
- ⑫ イオンモールむさし村山ミュー
- ⑬ イオンモール日の出
- ⑭ イオンモール大和
- ⑮ イオンモール富津
- ⑯ イオンモール成田

- ⑰ イオンモール千葉ニュータウン
- ⑱ イオンモール高岡
- ⑲ イオンモール浜松志都呂
- ⑳ イオンモール名古屋ワンダーシティ
- ㉑ イオンモール岡崎
- ㉒ イオンモール東浦
- ㉓ イオンモール木曽川キリオ
- ㉔ イオンモール鈴鹿ベルシティ
- ㉕ イオンモール京都ハナ
- ㉖ 京都ファミリー*
- ㉗ イオンモール榎原アルル
- ㉘ ならファミリー*
- ㉙ イオンモール藤井寺
- ㉚ イオンモール寝屋川グリーンシティ
- ㉛ イオンモール堺北花田プラウ
- ㉜ イオンモールのりんくう泉南

- ㉝ イオンモール鶴見リーファ
- ㉞ イオンモール伊丹テラス
- ㉟ イオンモール神戸北
- ㊱ イオンモール倉敷
- ㊲ イオンモール広島府中ソレイユ
- ㊳ イオンモール新居浜
- ㊴ イオンモール高知
- ㊵ イオンモール福岡ルクル
- ㊶ イオンモール直方
- ㊷ イオンモール三光
- ㊸ 大津ショッピングプラザ
- ㊹ イオンモール宇城バリュー
- ㊺ イオンモール熊本クレア
- ㊻ イオンモール宮崎

※京都ファミリー・ならファミリーはPM(プロパティ・マネジメント)物件です。



11月23日
オープン予定



● 2007年開店SC
● 上期リニューアルSC
● 下期リニューアル予定SC



多様なニーズにお応えるモール専門店
個性的なファッションや雑貨、レストラン街、シネマコンプレックスをはじめとするアミューズメント、さらには医療や銀行、行政サービスなどさまざまな機能を組み込み、楽しさと利便性を融合させたSCづくりを行っています。



ユニバーサルデザイン

小さなお子さま連れのお客さまや高齢の方、ハンディキャップを持った方など、ご来店されるすべてのお客さまに気持ちよくSCをご利用いただくために、全SCでユニバーサルデザインの施設づくりを行っています。

「輝きのあるまちづくり」を目指して。

イオンモールの展開するSCは、地域の暮らしの中心的役割を果たす商業空間であるとともに、地域社会、経済、文化の拠点でもあります。物販、飲食はもちろん、コミュニティ機能、アミューズメントや公共性の高いサービスなど、SCを通じてさまざまな価値を提供することで、地元の魅力を引き出し、地域の発展、活性化に大きな貢献を果たしています。



お祭り

駐車場やセントラルコートを、地元のお祭り、市民コンサート、物産展などのイベント会場として提供しています。



地域コミュニティ



地域イベント

SC内の多目的ホール「イオンホール」は、成人式、確定申告、運転免許更新にともなう講習会などの会場として、地域の皆さまに広くご利用いただいています。

環境保全

「環境と共生するSC」、「地域と共生するSC」づくりが社会的責務と考え、ゼロエミッションへの取り組み、リサイクル資材の活用、省エネ設備の採用によるCO₂削減などの環境対策に注力し、環境に配慮したSCづくりを推進しています。



決算の状況(イオンモール株式会社)		(単位：百万円)
	当中間期 自2007年2月21日 至2007年8月20日	前中間期 自2006年2月21日 至2006年8月20日
営業収益	32,971	29,214
営業利益	10,649	9,950
経常利益	9,956	9,402
中間純利益	5,746	5,533
総資産	224,970	223,983
純資産	63,868	53,321

当中間期は、既存SCの収益が順調に推移したことに加え、前期に
開店した3SCの寄与もあり、SC事業は大幅な増収となりました。
イオンモール富津(千葉県)、イオンモール高知(高知県)、イオンモール
下田(青森県)において、新たな専門店の導入、改装等を実施し、その
他のSCにおいても、競争力強化と活性化に取り組みました。その結
果、既存21SCの専門店売上高が前中間期比2%増となり売上高に連
動する歩合家賃の比重が大きい専門店からの家賃収入が増加し、収
益向上に大きく貢献しました。また、保険代理店事業では、個人分野
の営業活動に注力し、SC内における保険ショップが好調に推移しま
した。以上の結果、当中間期の連結業績は、営業収益329億円(前中
間期比12.9%増)、営業利益106億円(同7.0%増)、経常利益は99
億円(同5.9%増)、中間純利益57億円(同3.9%増)となりました。

業績の状況(株式会社ダイヤモンドシティ)		(単位：百万円)
	当期 自2007年3月 1日 至2007年8月20日	前中間期 自2006年3月 1日 至2006年8月31日
営業収益	25,668	20,652
営業利益	5,958	4,736
経常利益	6,001	4,743
当期純利益	2,662	2,745
総資産	140,077	118,735
純資産	49,204	42,903

※合併に伴い、当期と前中間期で期間に変更があります。

株式会社ダイヤモンドシティは、2007年3月20日開催の取締役会決
議を経て、2007年8月21日付でイオンモール株式会社と合併しま
した。これに伴い、従来の中間決算日は8月31日ですが、2007年
3月1日から2007年8月20日までの期間の業績を記載しています。

2007年3月1日から2007年8月20日までの業績は、イオンモール
株式会社との合併に伴い、前中間期よりも営業日数が11日短くなり
ましたが、前期下期に開店した3SCの寄与に加え、既存SCが堅調に
推移しました。特に、2002年以降に開店したモール型の8SCが大変
好調に推移しています。

営業収益は、256億円(前中間期比24.3%増)、経常利益は60億
円(同26.5%増)と増収増益になりました。当期純利益は減損処理等
による特別損失計上により26億円(同3.0%減)となりました。

通期の見通し

	通期見込み	通期見込み前期比
営業収益	96,500百万円	155.0%
経常利益	30,000百万円	144.2%
当期純利益	17,500百万円	143.7%
1株当たり当期純利益	116.20円	

※通期の見込みは、2007年4月4日公表の業績予想と変更ありません。
※当社は、2007年8月21日付にて株式会社ダイヤモンドシティと合併いたしました。通期の業績予想は、当社の通期予想に株式会社ダイヤモ
ンドシティの下期予想(非連結)を合算し、1株当たり予想当期純利益は合併による発行済株式数を考慮したものを参考数値として記載して
おります。

下期につきましては、新生「イオンモール株式会社」として、新たな取り組みを進めていきます。11月にはイオンモール羽生
(埼玉県)、イオンモール日の出(東京都)を開店し、イオンモール千葉ニュータウン(千葉県)、イオンモール川口キャラ(埼玉
県)の増床・リニューアルを予定しています。その他のSCについても、魅力ある専門店の導入やSC競争力の強化、SC運営の
効率化に注力し、さらなる業績拡大に努めます。加えて、2008年度以降の新規SCへの取り組みや、中国での事業展開に向け
たさまざまな施策を推進していきます。

保険代理店事業については、高度化・複雑化するお客さまのニーズに応える提案型営業を一層強化するとともに、SCにお
けるショップ数の拡大と取扱商品の拡充を図ります。

通期の連結業績見通しは、営業収益965億円(前期比55.0%増)、経常利益300億円(同44.2%増)、当期純利益175億円(同
43.7%増)を見込んでおります。

□ 連結財務諸表(要旨)
 イオンモール株式会社

連結損益計算書

	(単位:百万円)	
	当中間期 自2007年2月21日 至2007年8月20日	前中間期 自2006年2月21日 至2006年8月20日
営業収益	32,971	29,214
不動産賃貸収益	31,946	28,281
保険代理店手数料	1,024	932
営業原価	19,168	16,626
営業総利益	13,802	12,587
販売費及び一般管理費	3,152	2,637
営業利益	10,649	9,950
営業外収益	305	245
営業外費用	998	792
経常利益	9,956	9,402
特別利益	93	123
特別損失	130	143
税金等調整前中間純利益	9,919	9,382
法人税、住民税及び事業税	4,217	3,873
法人税等調整額	△80	△60
少数株主利益	34	36
中間純利益	5,746	5,533

連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位:百万円)	
	当中間期 自2007年2月21日 至2007年8月20日	前中間期 自2006年2月21日 至2006年8月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,890	20,860
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,872	△22,595
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,926	3,413
現金及び現金同等物の増加額	91	1,678
現金及び現金同等物の期首残高	3,235	9,525
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,327	11,203

連結株主資本等変動計算書

	(単位:百万円)							
自 2007年2月21日 至 2007年8月20日	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2007年2月20日残高	7,796	7,165	43,784	△15	58,730	972	331	60,034
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△1,800		△1,800			△1,800
中間純利益			5,746		5,746			5,746
自己株式の取得				△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)						△141	28	△112
中間連結会計期間中の変動額合計			3,946	△0	3,946	△141	28	3,833
2007年8月20日残高	7,796	7,165	47,731	△16	62,677	830	359	63,868

連結貸借対照表

	(単位:百万円)	
	当中間期 2007年8月20日現在	前中間期 2006年8月20日現在
資産の部		
流動資産	11,976	18,454
固定資産	212,994	205,529
有形固定資産	190,356	184,194
無形固定資産	827	896
投資その他の資産	21,810	20,437
資産合計	224,970	223,983
負債の部		
流動負債	40,830	57,508
固定負債	120,272	113,153
負債合計	161,102	170,662
純資産の部		
株主資本	62,677	52,084
資本金	7,796	7,796
資本剰余金	7,165	7,165
利益剰余金	47,731	37,137
自己株式	△16	△14
評価・換算差額等	830	938
少数株主持分	359	298
純資産合計	63,868	53,321
負債・純資産合計	224,970	223,983

□ 単体財務諸表(要旨)
 イオンモール株式会社

損益計算書

	(単位:百万円)	
	当中間期 自2007年2月21日 至2007年8月20日	前中間期 自2006年2月21日 至2006年8月20日
営業収益	33,120	29,363
営業原価	19,553	17,015
営業総利益	13,567	12,348
販売費及び一般管理費	3,143	2,627
営業利益	10,423	9,720
営業外収益	321	251
営業外費用	976	768
経常利益	9,768	9,203
特別利益	93	123
特別損失	130	143
税引前中間純利益	9,731	9,183
法人税、住民税及び事業税	4,136	3,788
法人税等調整額	△75	△57
中間純利益	5,671	5,452

株主資本等変動計算書

	(単位:百万円)						
自 2007年2月21日 至 2007年8月20日	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2007年2月20日残高	7,796	7,165	43,197	△15	58,143	972	59,115
中間会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△1,800		△1,800		△1,800
中間純利益			5,671		5,671		5,671
自己株式の取得				△0	△0		△0
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)						△141	△141
中間会計期間中の変動額合計			3,871	△0	3,870	△141	3,729
2007年8月20日残高	7,796	7,165	47,068	△16	62,013	830	62,844

貸借対照表

	(単位:百万円)	
	当中間期 2007年8月20日現在	前中間期 2006年8月20日現在
資産の部		
流動資産	11,638	18,073
固定資産	211,013	203,530
有形固定資産	186,145	179,777
無形固定資産	820	887
投資その他の資産	24,046	22,865
資産合計	222,651	221,603
負債の部		
流動負債	40,509	57,205
固定負債	119,297	111,880
負債合計	159,806	169,086
純資産の部		
株主資本	62,013	51,579
資本金	7,796	7,796
資本剰余金	7,165	7,165
利益剰余金	47,068	36,632
自己株式	△16	△14
評価・換算差額等	830	938
純資産合計	62,844	52,517
負債・純資産合計	222,651	221,603

損益計算書

	（単位：百万円）	
	当期 自2007年3月 1日 至2007年8月20日	前中間期 自2006年3月 1日 至2006年8月31日
営業収益	25,668	20,652
営業原価	17,224	14,024
営業総利益	8,444	6,627
一般管理費	2,485	1,890
営業利益	5,958	4,736
営業外収益	278	266
営業外費用	236	260
経常利益	6,001	4,743
特別利益	157	67
特別損失	1,698	145
税引前当期純利益	4,459	4,665
法人税、住民税及び事業税	2,046	1,844
法人税等調整額	△249	74
当期純利益	2,662	2,745

※合併に伴い、当期と前中間期で期間に変更があります。

株主資本等変動計算書

自 2007年3月 1日 至 2007年8月20日	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2007年2月28日残高	8,866	9,806	28,511	△69	47,115	0	47,115
当事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△573		△573		△573
当期純利益			2,662		2,662		2,662
自己株式の取得				△0	△0		△0
固定資産積立金の取崩							
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額（純額）						△0	△0
当事業年度中の変動額合計			2,089	△0	2,089	△0	2,089
2007年8月20日残高	8,866	9,806	30,600	△69	49,204	0	49,204

貸借対照表

	（単位：百万円）	
	当期 2007年8月20日現在	前中間期 2006年8月31日現在
資産の部		
流動資産	5,937	6,767
固定資産	134,139	111,967
有形固定資産	75,740	57,446
無形固定資産	585	590
投資その他の資産	57,813	53,930
資産合計	140,077	118,735
負債の部		
流動負債	46,943	34,137
固定負債	43,929	41,694
負債合計	90,872	75,831
純資産の部		
株主資本	49,204	42,903
資本金	8,866	8,866
資本剰余金	9,806	9,806
利益剰余金	30,600	24,291
自己株式	△69	△61
評価・換算差額等	0	0
純資産合計	49,204	42,903
負債・純資産合計	140,077	118,735

会社概要
 （2007年8月21日現在）

社 名	イオンモール株式会社
英 文 社 名	ÆON Mall Co., Ltd.
設 立	1911（明治44）年11月
資 本 金	166億62百万円
本社所在地	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
従 業 員 数	641名

取締役・監査役
 （2007年9月21日現在）

代表取締役会長	野島英夫	
取締役副会長	鯛 洋三	国際事業担当
代表取締役社長	村上教行	
専務取締役	木村洋一	財経本部長
専務取締役	山中千敏	開発担当
常務取締役	岡崎隆夫	管理本部長
常務取締役	坂本 誠	中国事業本部長
常務取締役	西尾徹二	SC営業本部長
常務取締役	平林秀博	開発本部長
常務取締役	藤塚賢三	SC営業本部活性化サポート部長
常務取締役	池田吉成	開発本部西日本開発部長
取締役相談役	岡田元也	
取締役	林 直樹	
取締役	三浦政次	マレーシア本部長
取締役	小西幸夫	テナント開発本部長
取締役	瀧澤 一郎	保険事業本部長
取締役	大西秀明	建設部長
取締役	坂部正博	中国事業本部副本部長
取締役	寺澤洋一	管理本部副本部長
取締役	村井正人	SC営業本部近畿営業部長
監査役（常勤）	横井 賢	
監査役	西松正人	
監査役	林 有恒	
監査役	石垣富士夫	

株式の状況
 （2007年8月20日現在）

発行可能株式総数	320,000,000株	（注）1
発行済株式の総数	120,022,464株	（注）2
株主数	4,324名	

（注）1. 2007年2月21日付けで普通株式1株を2株に分割したことに伴い、発行可能株式総数は160,000,000株から320,000,000株に増加いたしました。

2. 2007年2月21日付けで普通株式1株を2株に分割したことに伴い、発行済株式の総数は60,011,232株から120,022,464株となりました。

8月21日付けの新生イオンモールの発行済株式の総数は、181,127,507株となっております。

大株主（上位11名）	当社への出資状況	
	持株数 （千株）	出資比率 （％）
イオン株式会社	64,305	53.58
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	6,861	5.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 （信託口）	2,878	2.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 （信託口）	2,209	1.84
農林中央金庫	1,925	1.60
インベスターズ バンク	1,786	1.49
東京海上日動火災保険株式会社	1,679	1.40
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	1,666	1.39
バンク オブ ニューヨーク タックス トリイティ ジャスデック オムニバス ツー	1,499	1.25
みずほ信託銀行会社	1,439	1.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 （三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティインベストメンツ株式会社信託口）	1,439	1.20

（注）1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。

2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。